

# 第1学年1組 生活科学習指導案

第1学年1組 22名

授業者 柳本 真美

## 1 単元名 ひろがれ えがお (啓林館)

資料 紙芝居「じしんなんかは まけないぞ」(教育画劇)

## 2 単元の目標

- ・家庭での生活は、互いに支え合っていることが分かる。【知識及び技能】
- ・家庭における家族のことや自分のできることなどについて考える。【思考力、判断力、表現力等】
- ・自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとする。【学びに向かう力、人間力等】

## 3 指導にあたって

### 【児童観】

本学級の児童は、「みんなで1つ」をクラス目標に、周りの様子を見ながら、自分たちで考えて行動する姿が少しずつ見られるようになってきている。また、給食や掃除などの当番活動や、係の仕事に責任をもったり、意欲的に取り組んだりする姿も見られるようになってきている。家庭生活においても、家族の喜ぶ顔が見たいと、以前から進んでお手伝いをする児童もいる。地域がら、「津波が来たら大好きな家族と離れてしまうかも。」という危機感を幼いながらも持ち、七夕の願い事に、「地震が起こりませんように。」「津波がきませんように。」と書く児童もいる。しかし、まだ家族に甘え全面的に依存しており、家族がやってくれていることをあたりまえに感じていたり、家庭のよさに気づけていなかったりするもののほうが多いと感じるのが現状である。

### 【教材観】

本単元は、家族とともにしていることや家族にしてもらっていることなどをふり返り、家族のことや家庭生活における自分のこと、自分でできることについて考え、自分の役割を進んでできるようになることを目指している。また、家庭における自分の生活を見直し、規則正しく健康に気を付けて生活できるようになることも期待している。

現代社会は、少子化や核家族化が進み、子どもが家族とさまざまな関わりを通して豊かな人間関係を身につけることが難しくなってきている。またこの時期の子どもたちは、家庭に守られていることがあたりまえになり、家族や家庭のよさを感じたり、自分が家庭でできることがあることに気づいたりしていないことが多いと考えられる。そこで、子どもたちが改めて家族や家庭生活を見つめ直し、家族との関わりを通して、絆を深め、家族のよさや温かさを実感することは大切であると考えます。

本単元の学習から子どもたちには、自分の家族を見つめ直してほしい。そして、家族の支え合いによって毎日の自分の生活が成り立っていることを知り、家族のために自分には何ができるかを見つけ、それを実際の生活の中で実践させたい。その際、「自分のことは自分です。」「できるお手伝いをする。」以外にも家族のためにできることがあることに気づいてほしい。そのために、地域がら、防災に対する意識をみんなにもってほしいという願いもあり、「地震や津波に備え、家族のためにみんなができることは何か。」と問いかけ、いろいろな角度から自分にできることを考えさせたい。最後には、この活動をふり返り、家族のよさに気づき感謝の気持ちを表現するとともに、役割を果たすことができるようになった自分に気づかせたいと考える。

### 【指導観】

事前に保護者や職員に「家事の中で大変だと思うこと」についてアンケートをとり、それをランキング形式にしておく。まず導入で、そのランキングを考える活動を通して、普段あたりまえのように過ごしている家庭生活や家族への関心を高めさせたい。その際、各家庭のランキングではなく、アンケート対象者全体をふまえたランキングを考えさせるため、グループでの話し合い活動を取り入れるようにする。グループ内でリーダーを決め、全員が自分の考えを明確にした上で、自分たちの経験などを参考に具体的な理由なども入れて話し合いをするように声かけをする。さらに、「なぜ、こんな大変なことをいつもしてくれているのか。」と考えることで、家族のよさに気づいたり、家族への感謝の気持ちをもつことができるようになったりしてほしいと考える。ここでも、グループで話し合う活動を取り入れることで、考えに広がりをもたせられるようにしたい。その中で、夏休みに行ったお手伝いをふり返り、もう一度家族の一員として自分ができそうな仕事を考え、できるだけ続けて取り組ませるようにする。また、家族のために自分には何ができるかを見つけ、それを実際の生活の中で実践させる際、「地震や津波に備え、家族のためにみんなができることは何か。」と問うことで、家族のために自分たちができることはお手伝い以外にもあることに気づけるようにしたい。単元の初めに、学級通信などで単元のねらいを明確に伝えることで、家庭での活動の際、お家の人からアドバイスをしてもらったり、取り組んだことを認めてもらったりできるようにする。そして、地震や津波の備えとして自分たちで決めたことを家で実践させることで、家族と共に考えたり、準備したりするきっかけとしたい。その中で、家族の役に立つことが嬉しいことや自分の成長を家族が喜んでいることにも気づかせたい。

## 4 観点別の評価規準

### 【知識・技能】

- ・家庭での生活は、互いに支え合っていることが分かったか。

### 【思考・判断・表現】

- ・家庭における家族のことや自分のできることなどについて考えることができたか。

### 【主体的に学習に取り組む態度】

- ・自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとしたか。

## 5 単元計画（全9時間）

第1次	いえの人のえがおを見つけよう	〔2時間〕
第2次	どんなことができるかな	〔5時間〕
	・家の仕事についてできることを考えよう	〔4時間〕
	・災害時に備え、自分たちができることを考えよう	〔1時間 本時〕
第3次	うれしかったことを つたえよう	〔2時間〕

## 6 本時の目標

家族で支え合い助け合いながら生活するため、家族のことや自分のできることなどについて考える。

## 7 防災の視点（※）

地震や津波に備えて、自分が家族のためにできることを考えさせることにより、防災に対する心構えをもたせる。（B）

## 8 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点 (○) と防災の視点 (※)
1 本時のめあてを知る。	○今まで家族のために取り組んできたことを振り返る。その上で、今日は、地震や津波に備え、家族のために、自分たちができることについて考えることを知らせる。
地震や津波に備えて、自分が家族のためにできることは どのようなことだろう。	
2 自分たちができることについて、班で意見を出し合う。 ・学校で取り組んだことについて知らせる。 ・新聞スリッパを一緒に作る。 ・家の中で危ない場所について話し合う。 ・非常持ち出し袋を一緒に準備する。など	※今までの防災学習なども思い出しながら考えるよう声かけをする。 ○「～について知らせる」「～を話し合う」「～と一緒に準備する」など、家族のためにできることを、できるだけたくさん考えさせるため、班活動にする。
3 班で出た意見を全体に発表する。	○自分たちの意見と違うところ同じところを意識しながら聞くようにさせる。 ※紙芝居「じしんなんかにまけないぞ！」の読み聞かせを行い、地震に備えて、自分たちにもできそうなことが他にないか考えながら聞くようにさせる。 ○出た意見を板書し、後で、選ぶことができるようにしておく。
4 自分が家族のためにできることを選び、ワークシートに書く。	○みんなから出た意見を参考にし、家族のために自分がしようと思うことを選んで、ワークシートに書くようにする。 ※「家が海に近いところにあるから」など、それぞれの家庭の事情なども踏まえて考えられるように声かけをする。 ○なぜ家族のためにそれをしようと思うかなど、家族への思いも書くようにさせる。
5 本時の振り返りをする。	○家族のことを考えながら、自分にできることを一生懸命考えることができたかについて◎○△で振り返らせる。 ○今日決めたことについて、必ず家で取り組むことを伝え、次時につなげるようにする。

## 9 本時の評価

家族で支え合い助け合いながら生活するため、家族のことや自分のできることなどについて考えることができたか。